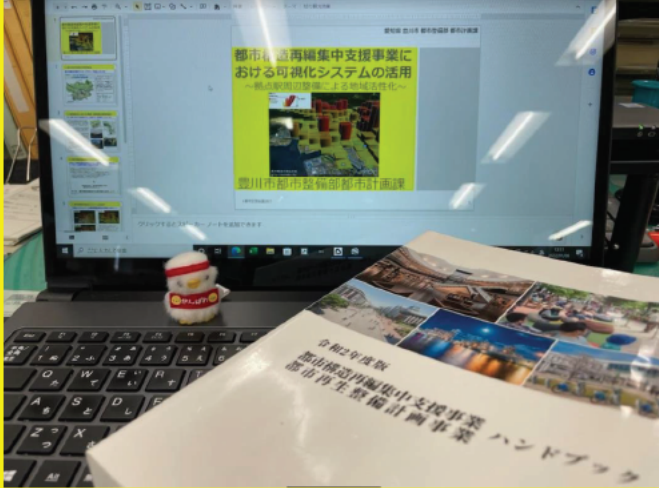


都市構造再編集集中支援事業における可視化システムの活用 ～拠点駅周辺整備による地域活性化～



豊川市都市整備部都市計画課

i-都市交流会議2022

1

1. 豊川市が目指す都市構造

豊川市都市計画マスタープラン（令和3年3月）

<将来都市像>

歴史・文化・自然が息づき
人とまちが輝き続ける持続可能な都市



本計画の上位計画である第6次豊川市総合計画では、『光・緑・人 輝くとよかわ』を町の未来像として掲げている。

さらに、都市づくりを取り巻く時代潮流から見ると『都市構造（コンパクトシティ＋ネットワーク）』、『都市活力（コミュニティ維持、安全・安心）』、『都市環境（個性・魅力、自然環境）』及び『都市経営（維持管理、市民協働）』の5つの視点がこれからの都市づくりにおいては重要な視点になると考えられる。

凡例

市街地ゾーン(住居系)	市街地ゾーン(商業系)	新たな産業集積エリア	景観環境再生ゾーン	中心拠点	地域拠点	緑の拠点
広域幹線(高速道路)	広域幹線(幹線道路)	広域公共交通(鉄道)	広域公共交通(バス)	環濠(河川)	三河湾	

i-都市交流会議2022

2

2.地域拠点における課題（地域拠点御津地区）

市内7箇所に点在する拠点駅のうち、本研修では【御津地区】にフォーカス

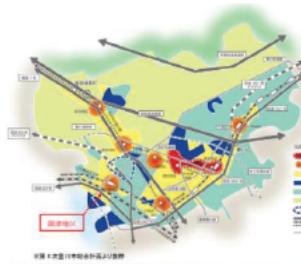
御津地区は市域西部の三河湾に面する地域にあり、合併前の旧宝飯郡御津町時代から駅を中心に市街地が形成されてきたが、都市計画道路の整備に伴う駅前広場の延伸等、駅周辺の整備が進まなかったことで、一時の賑わいが衰えつつある。

御津地区における拠点駅である「JR愛知御津駅」は北側に改札口のある木造平屋の地平駅と暫定整備の駅前広場があるが、南側には駅前広場がなく、線路が市街地を分断する形となっている。

駅南側からのアクセスは、駅の西側の御油踏切と東側の幅員が極めて狭い梨野橋梁（ガード下）からとなり、どちらも歩行者専用通路が確保されておらず、安全面が課題となっており、駅利用者のみならず、地域の小中学生や高齢者にとって危険な状況にある。

また、津波等の災害時に沿岸部からの避難者の避難経路が長くなることも考えられる。

道路整備の進捗から駅へのアクセス経路が整いつつある状況において、駅前広場の事業化に合わせ線路による分断を解消し、一体的な市街地形成と南北間の安全な往来手段が地元から強く要望されている。



愛知御津駅と駅前広場



御油踏切



梨野橋梁（ガード下）

i-都市交流会議2022

3

3.都市構造再編集中支援事業活用の可能性

目指すべき都市構造を実現するため、都市局所管補助事業において『まち』の課題を解決できないか考察

- ▲鉄道により市街地が南北に分断されている・・・
- ▲駅周辺の賑わいが失われつつある・・・
- ▲地域の小中学生や高齢者にとって危険な状況にある・・・
- △歩行者が安全に往来できる南北自由通路を整備したい・・・
- △駅前広場を整備して地域の活性化を図りたい・・・
- △その他にもやりたいことがいっぱい・・・



自由度が高く、自治体の創意工夫を
活かせるそんなメニュー・・・

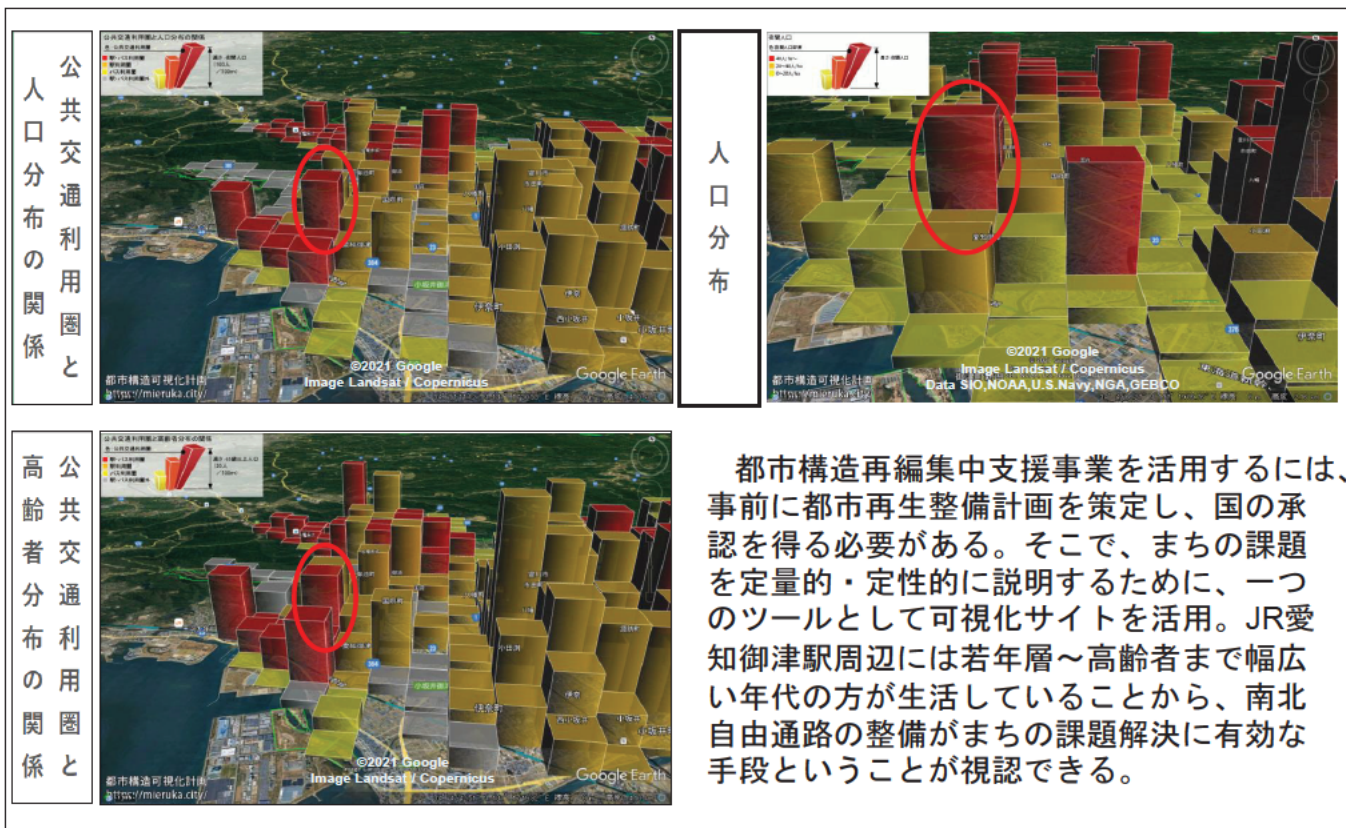
そうだ、都市構造再編集中支援事業を活用しよう！！

i-都市交流会議2022

4

4.都市構造可視化システムの活用

可視化システムでJR愛知御津駅周辺の状況をつかむ！！



i-都市交流会議2022

5

5.都市構造可視化システムの活用成果

補助事業の取りまとめを行う建設総務係として・・・



i-都市交流会議2022

○補助事業についてのヒアリング（特に新規事業）の際の一つの説明ツールとして活用できることを実感できた。
○『危険』『大変』等、ヒアリング時に口にしがちな曖昧ワードであるが、当該システムを活用することにより、それらにお墨付きを付与することができた。

6

6.都市構造可視化システムにおける課題等

【庁舎内におけるシステムの在り方】

①仮想デスクトップによる弊害

・本市においては仮想デスクトップを導入していることから、Google Earth ProのDLが不可能であり、全庁的に都市構造可視化システム自体を浸透させることが困難。

②KMLデータについて

- ・可視化サイトよりKMLデータをDLする際、都度、情報システム管理部署の許可が必要。

※DL出来たとしてもGoogle Earth ProのDL問題が...



気軽に利用できる環境整備が難しい。

☆☆☆☆☆愛知県豊川市の紹介☆☆☆☆☆

